

としまPゼミ通信は、毎回の活動をまとめ、学びのふりかえりに役立てていただくことを目的に発行しています。第3回月例会の活動を紹介します！



## あそんで学ぶ 子どものケンリ

### ～あそびの中に権利あり～

まず、北さんから前回までのふりかえりのお話がありました。「コミュニケーションとは個人の能力でなく、関係づくりそのもの。人とかかわりの中で、育まれていくものです。関係づくりの体験が少なかったり、その時に嫌なことがあると、人とかかわろうとする意欲が減少します。『どんな関係づくりにしたいのか』、また『かかわりたいという意欲はどうしたら育つのか』を学ぶことができました。意欲を高める3つのエンジンは『安心』『興味・関心がある』『他者に思いを馳せる想像力』です。」様々なあそびをとおり、私たちも相手とかかわる関係づくりの練習を重ねてきましたね。

#### 子どもの権利条約は・・・子どもからの挑戦状！？

今回は子どもの権利条約について学びます。子どもの権利条約は1989年、国連総会で採択されました。日本ユニセフ協会ではわかりやすい抄訳として第1～40条を公開しています。下記サイトでご確認いただけます。

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/siryu/pdf/CRCshouyaku/picture.pdf>

「今日はまず知っていくことから始めましょう。コミュニケーション、響関力の根っこにあるのはこの権利です。」はじめて子どもの権利条約を知った時、北さんは「これは子どもからの挑戦状だ！」と思ったそうです。理由は以下の4つです。

1. 権利の主体者である。子どもは保護するものではない
2. 子どもと共に何かをつくる、パートナーになる
3. 子どもは大人の準備期間ではない。子どもの時間を生きている
4. 権利とは、当たり前で、正当で、尊重されるもの



「権利とは当たり前のことです。前に韓国で、日本式に靴を脱いでくるっとまわしてそろえて置くと、『そんなに早く帰りたいのか？』と現地の人に言われました。もしその時、日本の常識ではこうですよと突っぱねていたら、今頃戦争になっていたのかもしれない。」皆さんからは一瞬笑いが起きました。

北さんは続けます。「それぞれが持っている当たり前は違うし、なかなか認められないのです。子どものおにごっこでも、『おにに捕まりたくない当たり前』、おにには『捕まえない当たり前』があります。あそびはぶつかり合いなのです。

また権利とはどのように問題を解決していくのかの基準です。この根がしっかりしていれば相手との関係づくりがうまくいきます。子どもには18歳までなぜ時間があるのでしょうか。あそびながら人と人の中で生きていく練習をしている。そうやって大人になった時、関係づくりはうまくいくはずです。」

#### さああそびましょう！

今回も初参加の方がいらっしゃいます。今までにやったあそびに加えて、**二人組ババ抜き**をしました。

また**キャッチボール選手権**では、4人一組で写真のように輪になり、「せーの」のかけ声で新聞紙ボールを右隣の人に投げると同時に、左隣からのボールをキャッチしました。落とさないように1分で何回ボールを回せるか連続記録に挑戦しました。6～10回



が平均だそうです。やってみると意外と難しい！思うように回数が伸びません。

「では『どのように問題を解決していくか』を2分間各グループで相談してください。『私は苦手だ、順番変えてみる？立とうよ！正座する？』など。どんな選択肢も自由ですよ。」と北さんからお話がありました。

どう新記録を出すか、それぞれのチームが真剣に相談しました。そして2回目！果たしてどうだったでしょう?!第1回の記録を全チームが更新しました！な、なんと最高は38回！大人の最高値は44回なのでもう表彰レベルですね。

### あそびの中に権利あり～実際にやってみよう！

次に権利のワークをしました。権利とは要求です。まず2人組になり、各自それぞれほしいものをあげました。その中で**2人の「ほしいものベスト3」**を話し合い発表しました。ものだけでなく面白いものもあがりましたよ。「よく見える目」「余裕」「ご飯を食べられる子育て広場」「睡眠時間」「自由な1人時間」などです。

「権利条約はこうやって10年かけて、色々な国の子どもがほしいものや当たり前をまとめて40にしたのです。①お互いが安心できること②自分以外の他者も納得すること③合意・同意④わたしたちで決められる。だれも排除されないこと の4つの条件をクリアする必要があります。」と北さんが教えてくださいました。

最後に**大きなかぶ**のワークショップをやりました。2人組になり「あなた」と「かぶ」役に分かれしました。収穫時期ではないけれど、あなたはかぶを抜かなくてははいけない。反対にかぶはおいしくなるのは先だから今は抜かれないのです。2分間で「脅しと泣き落としは、なし」であなたはかぶを説得します。「抜きたい」と「抜かれない」の2つの当たり前がぶつかりました。かぶがその気になり、安心でき、抜かれる合意にいたるのかを2人で考えます。

相手を変えて2回目もやりました。その後、どんな風にかぶの気持ちも動いたか、何が心を動かしたのか、言語化していきました。以下は皆さんの発表です。どれも興味深い理由ですね！

◇かぶに聞きました！どうして抜かれてもいいと思ったのでしょうか◇

- ・抜かれた後でワクワクするような想像+今の状態を認めてくれる ・最初の声かけの雰囲気
- ・他の人のためになる ・安心感 ・他との違いをほめてもらえる ・子どもの役に立ちたい
- ・あなたが一番！ ・要求を受け入れてくれた ・あなたなら大丈夫 ・あなたがいい！
- ・どちらのニーズも満たす提案 ・価値を認めてもらえた ・自分しかできないこと
- ・双方ともワクワクした目的に同意 ・代替案 抜くけど、またすぐ植えて大事にする

次回の月例会でまとめを北さんからお話ししていただきます。響関にどうつながっていくのか・・・楽しみですね。権利は遠くにあるのではなく、わたしたちの身近にあると感じていただけたいでしょうか。

### ○○○みなさんからの感想を一部ご紹介します○○○

\*原文ママ

今回学習した内容で、印象に残ったこと

- 子どもの権利について、一方的な講義でなく、レクレーション形式で学ぶことにより理解が深まった。
- 「大きなかぶ」のワークの皆さんの回答が印象的。
- 子どもは大人の準備期間ではない。子どもの時代をきている。
- 「権利はどのように問題解決をしていくかの基準」、「共に作るパートナー、他者とその気に、共感・合意」という事がワークを通して体感できて参考になった。

これから実行しようと決めたこと

- 子どもたちに対して「子ども時間を生きているパートナー」というマインドで共に生きていきたい。
- 何事も双方が納得するように心掛ける。
- かぶを説得するための自分のボキャブラリーの少なさに気づいた。うまく伝える努力をしたい。
- 遊びを通してルールを破ったり、修正したり、新しく作り出す体験や過程が大事と思ったので、子どもと自由に遊んでいきたい。



今年度の学習発表会は、令和8年3月1日(日)区役所1階としまセンタースクエアにて開催します。  
今年度の担当は太田・岡田・大和田です。よろしくお願いします！